

音の輪・音の和



一般社団法人
兵庫県音楽療法士会

2017年3月発行 No. 7

15周年記念式典に寄せて



実行委員長
大串智恵

兵庫県音楽療法士会は2002年の発足より15年を迎えることになりました。2016年10月30日(日)、六甲の山並みを背景に屹立するANAクラウンプラザホテル神戸で15周年記念式典開催の運びとなりました。

記念式典は2012年に法人格を取得し名称を新たにした「一般社団法人兵庫県音楽療法士会」の広報と多くの方に音楽療法を知って頂くことを目指し、また懇親会では約250名が在籍する会員相互の親交深めるためにと、内外2つのコンセプトを考案しました。

式典の始まりは、音楽療法の臨床現場で使われるセラピーソングをバイオリンとピアノの二重奏のBGMで会場を音楽で包み込みながら、当会が15年間歩んできた歴史を写真とナレーションでご紹介しました。記念式典には井戸県知事様、当会顧問の司馬良一先生からご祝辞を頂き、また多くのご来賓の方々のご臨席

を頂きました。本誌をお借りしまして心よりお礼申し上げます。

特別講師はメディアで有名な音楽家の青島広志先生と歌手の小野勉様を招聘し、青島先生のテンポ早いトークや作曲者にまつわる裏話とピアノ演奏、また小野様の歌声によって、音楽の素晴らしさや楽しさをお伝え下さいました。

また式典後の懇親会では、楽しい余興や歓談を通してさらに会員同士の親交が深まれば幸いです。

15周年記念式典を終え、今後益々の音楽療法の普及と発展を願い、また私たち音楽療法士はさらに気を引き締めて励んでいくことを目標に、次の20年に向かって歩んでいきたいと思えます。



もくじ

● 15周年記念式典に寄せて	1	● 第5回 音・きずなコンサート	4
● 15周年記念式典及び特別講演	2	● 東北支援被災地訪問	5
● 第5回山口陽雄記念賞授与式	3	● 各支援団体主催の取り組みへの参画	5
● 兵庫県社会福祉事業団 兵庫県立西播磨総合リハビリテーション 10周年記念式典コンサート	3	● 平成28年度研修会・事例研究会事業	6
● ソーシャルワーカーデー 2016 in ひょうご	3	● 音楽療法定着促進事業	7
		● あなたの町のセラピスト	7
		● 楽器紹介&音楽の豆知識	8
		● 芸術文化を通じた障害者の社会参加促進事業より	8

15周年記念式典及び特別講演



兵庫県知事 井戸敏三氏

人々の心に
働きかける技
音楽通じ
可能性求む

式典では身に余る祝辞を頂き、歌も読んで頂きました。

祝辞

兵庫県社会福祉事業団顧問
総合リハビリテーションセンター特命参事 司馬良一

兵庫県音楽療法士会発足15周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

兵庫県音楽療法士会が社会の期待に応え、兵庫県下の福祉・教育・保健・医療などの分野に、音楽療法を導入し、普及にご尽力され、特に福祉施設では利用者さんたちが、「ここは音楽療法やっていますか」と施設を選択する要件の1つとしてあげることもしばしばで、いまや、

福祉施設では音楽療法はなくてはならない療法の1つとして定着させてこられました。この功績は「素晴らしい」の一言に尽きます。このように活動ができたのは、兵庫県をはじめ、多くの方々のご支援はもちろんでありますが、組織的に対応できる「会」の存在があったからだと思います。でも、この15年間は、決して容易な道ではなかったと、私は、みうけてきました。ここまでもってこられた貴会の歴代および現在の会長・理事長、役員、会員の皆様のご努力に心から敬意を表するものがあります。高齢者が増加し、障害者、障害児をふくめて、心豊かに生活できるように、心豊かに老後が送れるようになっていただきたいというのが社会の、いや、人間の願いではないでしょうか。これからも、この期待に応えていただけるように、貴会のさらなるご活躍、さらなるご発展を祈願し、ごあいさつとさせていただきます。本日はおめでとうございます。



特別講師 青島広志氏(左)と小野勉氏(右)

健康を願い、続けられてきた活動の数々。それが現在では、東日本大震災などで被災された方への支援に繋がり、県外にも広く及んでいることに感銘を受けました。井戸知事から祝辞でいただいた句「人々の心に働きかける技音楽通じ可能性求む」を心に留め、これからも様々な方に寄り添い共に前へ進めるよう努力したいです。

特別講演には、作曲家青島広志氏と、テノール歌手小野勉氏がお越し下さいました。青島氏は歴代作曲家の似顔絵を描きながら、時折ピアノ演奏も交えつつ、音楽のもつ特性についてわかりやすくご解説下さいました。

記念式典では、15年のあゆみを振り返るスライドにより遠い記憶が呼び戻されました。阪神・淡路大震災からの復興と兵庫県民の心と身体

小野氏の高らかに響く歌声に合わせて出席者全員で歌体操を楽しむ場面もあり、常に笑顔と活気が会場に満ち溢れていました。

懇親会では、経験豊かな音楽療法士が、巧みなパフォーマンスあり演奏ありの余興で一気に会場が盛り上がりました。その姿を見て、療法士は沢山の引き出しを持つことでクライアントの潜在能力を引き出すことができると改めて感じました。又懇親会があることで、仲間と療法についての近況報告や疑問点なども話すことができ、新たに活力を買えた良い機会となりました。



第5回山口陽雄記念賞授与式



されました。審査委員長の阿部恩氏より「多岐にわたる業績、ならびに実践活動に加え、音楽療法士会

平成29年1月22日に音楽療法の普及発展・音楽療法士の士気向上を図る目的として設立された山口陽雄記念賞の授与式が行われ、坂口啓子会員に授与されました。審査委員長の阿部恩氏より「多岐にわたる業績、ならびに実践活動に加え、音楽療法士会の運営にも責任を負って音楽療法の普及活動に尽力されました」と審査講評を述べられました。医療法人社団向陽会理事長山口紅子氏より、賞状並びに副賞が贈られました。受賞された坂口氏は「この度はこのような栄誉ある賞を頂きまして誠にありがとうございます。音楽療法を20数年も続けて来られたのは、周りの方々のご指導、ご協力やご縁が常にあったからだと思います。これからも一層努力を致す覚悟でございますので、変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。」と謝辞を述べられました。

兵庫県社会福祉事業団兵庫県立西播磨総合リハビリテーション10周年記念式典コンサート



兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター

6月4日(土)施設内ホール(たつの市新宮町光都)にて開催された式典に、音楽療法を紹介させていただき内容のプログラムを組んで出演させていただきました。列席されていた方は、県議会職員、県下各市町村長、各自治体、看護協会、医療福祉関連の関係者で、音楽療法を知っていただく絶好の機会でした。

始めはヘルマンハーブとヴァイオリンで演奏すると同時に、プロジェクターで曲に合わせた映像をバックに流しました。次の初夏を感じるワークでは、初夏を

イメージする絵を映し、連想された景色、歌を皆さんで歌い、又雨のワークでは雨の音を指鳴らしから始めて、大雨になり止んでいく様子をボディパーカッションで表現していただきました。そしてトーンチャイムの演奏を聴いていただいた後は、ツリーチャイムを追加して皆さんにも鳴らして親しんでいただきました。最後はヴァイオリン、フルート、カホン、鍵盤ハーモニカなどのアンサンブル演奏で終わりました。これまで参加型のコンサートをご存じなかった方も多いようでしたが、充分楽しんでいただけたようでした。



ソーシャルワーカーデー 2016 in ひょうご



今年も7月20日海の日に、神戸市立こうべまちづくり会館で開催された兵庫県社会福祉会主催の『ソーシャルワーカーデー』にて、当会の会員が音楽療法のデモンストレーションを行いました。社会福祉士は、相談援助の専門職であり、高齢者、児童、障がい者などの方々の家庭環境、生活状況や心身の状態を配慮しながら、適切な支援をされています。その現場のスタッ

フに音楽療法をより身近に感じていただけるような、リラックスと発散を目的としたプログラムで体験していただきました。〈夏〉〈沖縄〉〈海〉をテーマに、三線での『海の声』から始まり、『ひよっこりひょうたん島』に合わせた身体活動や、沖縄に因んだ言葉をボディパーカッションで表現していただきました。そしてパーラック、三板(さんば)などの民族楽器を取り入れた合奏、当会員によるフルート、ファゴットの演奏がありました。最後は大きなスパークハーブ(柔らかい布)を波に見立てて、皆さんに『うみ』をトーンチャイムとツリーチャイムで演奏していただきました。皆さんは熱心に参加され、音楽療法に興味を持っていただけたようで、今後の音楽療法の普及に寄与したのではないかと思います。



東日本大震災復興支援事業

第5回 音・きずなコンサート

平成28年6月12日（日）、神戸市北区のありまホール（北神区民センター）にて『第5回 音・きずなコンサート』が開催されました。今回のコンサートのテーマは『虹色のハーモニー』。オープニングでは音楽療法士たちが指を鳴らし、膝をたたくなどポディーパーカッションを使い雨の音を表現しながら入場し、この時期にふさわしい演出で幕が開きました。その後、松崎理事長から「支援される側、する側の垣根をとったバリアフリーの参加型コンサートです」とのあいさつがありました。

『ラーメン体操』で歌いながら体を動かし、楽器活動『にじいろ』では参加者が交代で舞台上がって



ハンドベルを鳴らし、皆一丸となって音楽を楽しんでいました。鑑賞ではバイオリン三重奏による『You raise me up』『パッヘルベルのカノン』の演奏があり、その美しい音色にみんなうっとり。その後『情熱大陸』のメロディーが流れると参加者も思わず立ち上がり、リズムによって元気よく体を動かし移動しながら踊っていました。最後は参加者全員で手話をしながら『にじ』を歌いました。

当日は子どもから高齢者まで189名の参加があり、会場は楽しい音楽と虹色の世界に包まれ、明るく優しい気持ちになった素敵なコンサートでした。



オープニング『にじ』



楽器活動『にじいろ』



『ラーメン体操』

東北支援被災地訪問

今年度も兵庫県から東日本大震災復興支援事業の補助金を受け、8月、9月、10月と計3回、9名の会員が宮城県石巻市、福島県の白河市といわき市で音楽療法を行いました。

今年で震災後5年、石巻市には今年で5回目の訪問でした。津波で大被害を受けた地域でしたが、『斉太郎節』が一番盛り上がり、心と心の絆の深まりとなるような共有時間が持てました。活動間のお茶タイムでは、更地になって虫の声が聞こえなくなったと言う声、仮設住宅は空き部屋が多くなり寂しいとの声など、震災直後の訪問時の状態と比べて復興はかなり進むに連れて、被災者が抱える問題は変化しつつあると痛感しました。

福島県の白河市では、日頃から音楽療法に関心がある参加者達が集まり、音楽療法の定義をより理解しやすい質疑形式にして、日頃の活動に利用しやすい方法をワークショップで紹介しました。乳児対象の親子セッションでは母子愛着形成を中心に、幼児対象では身体活動を多く提供し、元気いっぱいの子供たちの姿を見ることができました。いわき市では、目に見えず臭いもしない放射能に怯えながら我が家に戻れない声を聴いて、同じ震災でありながら

地域の違いによる問題を痛感しました。

震災後の復興は進んでも、被災された方々の悲しみは消えることなく、心に抱える問題は変化していきます。音楽療法士は柔軟性のある音楽を媒体として現地に赴き、参加者の方々の現状をその場で肌と感じ対応していきます。今回も参加者の方々が私たちを受け入れて下さり、同じ空間の空気が和む機会を肌で感じる事ができました。今までに現地の皆さまと療法士会会員を結びつけて下さったコーディネーターの方々に感謝の意を表すと同時に、今後もこの活動を継続する必要性を感じました。



各支援団体主催の取り組みへの参画



2016年12月10日『第27回あしたの集い』が開かれました。東日本大震災の影響で関西にいられている方を支援する集いで、臨床心理士会や弁護士など各種分野の方と協力する形で兵庫県音楽療法士会も参加しています。クリスマス会としては今年で5回目となり、大人15名、子ども15名合わせて30名の参加でした。ヴァイオリンとピアノで『チャルダッシュ』の演奏に続き、参加者の方にも加わっていただき『サンタが街にやってきた』『情熱大陸』を合奏し盛り上がりました。皆さんの余興もあり参加者どうしの交流につながる3時間でした。



平成28年度研修会・事例研究会事業

4月 研修会

ロビン・ロイド氏

民族楽器マルチプレイヤー

心に響く自然の音

～民族楽器を使った

ワークショップ



5月 公開研修

中井 昭夫氏

小児科専門医
臨床発達心理士

新しい神経発達障害の理解に
向けて～DSM-5を中心に～
身体から見た神経発達障害に
ついて



7月 事例研究会

北村 英子氏

日本音楽療法学会認定音楽療法士

高齢者の音楽療法 実践から考
える配慮と工夫～歌唱編ワーク



8月 公開研修会

岩永 誠氏

広島大学大学院総合科学研究科行動科学講座教授

被災者支援のための音楽療法に求められ
るもの

自分のセッションを発表する

セッションのまとめ方と抄録の書き方



9月 事例研究会

一ノ瀬 智子氏

武庫川女子大学准教授
日本音楽療法学会認定音楽療法士

日々の実践の根拠となる知識
高齢者の音楽療法について



11月 公開研修会

折山 もと子氏

合奏システム研究所主宰

音楽現場で役立つ音楽ツールと
スキルアップ



12月 事例研究会

後藤 浩子氏

臨床心理士
日本音楽療法学会認定音楽療法士

発達障害について
～接し方の工夫について～
『倫理』の『り』



1月 公開研修会

高山 仁氏

日本音楽療法学会理事
日本音楽療法学会認定音楽療法士

音楽療法における関係性、
その変容と方向性を探る
音楽で遊ぶ、音楽で育つ、
療育的音楽活動のススメ



2月 公開研修会

岡崎 香奈氏

神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授
米国・英国公認音楽療法士
ノードフロピンス音楽療法士(教員資格取得者
世界音楽療法連盟資格認定委員)

スーパービジョンについて

～事例に基づく音楽ワーク～



3月 公開研修会

下川 英子氏

日本音楽療法学会認定音楽療法士
埼玉療育園リハビリテーション科他

音で伝える・音でつながる

～音楽の拡がり柔軟性をさらに求めて～



音楽療法定着促進事業

昨年度の号まで2回にわたり、定着促進事業利用の分野別伸び率を分析し、そこから伸び率の高かった障がい者施設へのインタビュー、そして音楽療法の取り入れがまだ数少ない病院へのインタビューを掲載してきました。

今回は、施設と音楽療法士のマッチングを担当するコーディネーター折橋氏に、平成26年度から現在までの状況及び感想を聞きました。

コーディネーターとして、今一番感じているのは、「施設のニーズや社会ニーズを知る大切さ」です。又、施設のニーズと音楽療法士としての思いには少しずれが生じることがあります。その調整に少し苦慮することもありましたが、この2年間の施設定着率（一年後に同じ施設内で継続されている割合）が平成26年度96%、平成27年度91%となっており、音楽療法の良さを知って頂き、継続して頂いていることを、大変嬉しく思っています。

平成25年度までは、高齢者施設への新規導入が80%でしたが、平成26年度以降は高齢者施設55%、障がい児（者）施設が45%と変化しています。このことから、社会ニーズの変化も感じられます。

また、事業利用は少なかったものの、介護予防

サービスを提供する施設や日中一時支援を提供する施設、個人からの問い合わせが増えています。介護予防、幼児・学童の分野でも、音楽療法に期待を寄せて頂いていることを感じます。

これからは、「新規開拓」と共に、「音楽療法の質の向上」が大切になります。

この事業制度を更に充実させていくためにも、施設と音楽療法士、双方への伝達を丁寧に行い、より良い音楽療法の提供ができるように努力したいと思っております。

私たち音楽療法士も、時代の変化、福祉環境、介護保険制度の変化をよく理解し感じ取っていかねばなりません。「今、音楽療法に何が求められているのか」にも心を向けて、日々研鑽を重ねていきたいと思っております。

音楽療法のねらいや内容に要望や疑問がございませぬ時は、担当療法士やコーディネーターにお伝えください。私たちは、できるだけ一緒に考え、それに応えていきたいと思っております。

それが音楽療法の定着に繋がり、そして何よりも、対象者の方々の『今』を支えていくことに繋がると考えています。

【お問い合わせ】

TEL : 078-261-9601 FAX : 078-261-9602

Email : hmta_sokushin@ybb.ne.jp

担当/折橋まで

あなたの町のセラピスト

小島 幸子 (篠山市在住) *



音楽療法との出会いは、兵庫県が音楽療法士養成講座の受講生を募集するという新聞記事でした。北海道の小樽に住んでいた私たち家族は主人の実家のある篠山に移り、その翌年阪神淡路大震災がありました。私の実家は神戸にありすぐに駆け付けましたが、その時の様子は忘れることが出来ません。その後、その新聞記事を見つけたのです。高齢者領域で音楽療法をしたいと思いデイサービスに勤めながら介護福祉士の資格も取りました。兵庫県音楽療法定着促進事業で何ヶ所かの施設で音楽療法を実施し、その縁で今の医療法人「紀洋会」に常勤の音楽療法士として勤め、様々な高齢者施設でセッションを行っています。セッションで大切にしていることは、しっかりと相手を見て、聴いて、気持ちを感じる事。普段の生活の中に溶け込んでいくようなセッションを心がけています。音楽で始めて音楽で終わる。音楽療法なのだから当たり前のようなのですが、音楽療法士には音楽という強い味方がある事を自覚しながら音楽を用いていきたいと思っています。篠山で音楽療法の良さを広め、定着していく事を目標にし、対象者の方と楽しい時間を多く過ごしたいと思っています。



楽器紹介 & 音楽の豆知識



♪【楽器紹介】

トーンタンク

トーンタンクを直訳すると「音の舌」。舌のような長さの異なる8枚の木の板が、輪状になっている楽器です。付属のマレットで、8枚の木の板の内側を1つずつ叩いてみると、木琴のような音色で、それぞれ違う高さの音がします。

また、マレットで内側をこするように回してみたり、ビー玉などを楽器の内側に入れて回転させたりすると、カラココとやさしい不思議な音色を楽しむこともできます。

他のメーカーでは、オクタチャイムという名前でも販売されているものもあります。こちらの楽器にはトーンタンクのような持ち手はありませんが、どちらの楽器も音楽療法や教育現場で活用されています。



トーンタンク

♪【音楽の豆知識】

ヒーリング・ミュージックってどんな音楽？

波の音やせせらぎ、小鳥の鳴き声のように、もっとも自然らしさに近づけ、心の安定を得られるような脳波を引き出すための音楽。

たとえば、モーツァルトの音楽を聴くと血圧が下がった、などと音楽が心身の疲れを癒すのに有効性があるため、いろいろな場面で活用されるようになりました。

このように、不特定多数の人を対象にしたリラクゼーションに効果のある音楽全般を、ヒーリング・ミュージック(癒しの音楽)としています。

女性を美しくするという音楽もあります。ショパン・「別れの曲」/ドビュッシー・「亜麻色の髪の乙女」/シューマン・「トロイメライ」など、これらは作曲家が愛する人への想いを曲に託したものばかりです。聴けばまるで、素敵な男性から愛を囁かれているよう気持ちになり、ホルモンの分泌がよくなって若々しくなる効果があるといわれています。アイチエイジングにも癒しの音楽はいかがでしょうか？

参考文献 長田 暁二 著

「知ってるようで知らない音楽おもしろ雑学事典」より

『芸術文化を通じた障害者の社会参加促進事業』より

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害支援課から、平成28年度も障害者の社会参加に当会の支援活動（コンサート等）が認められ、補助金を頂きました。コンサートに必要な楽器を購入しました。

品目 ジャンベ・フレームドラム各種・ウッドブロック・カウベル
ギロ・スレイベル・プロジェクター



一般社団法人

兵庫県音楽療法士会



JR灘駅・阪急王子公園駅下車
徒歩約10分
神戸市バス(90・92系統)
上筒井1丁目バス停下車すぐ



兵庫県音楽療法士会では 以下のURLのホームページを運営しております。音楽療法に関することはもちろんのこと、会の活動内容や公開研修会の案内などをご覧いただくことができます。音楽療法で使う楽器の紹介も充実させたいと思っております。是非HPにもおいでください。

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6F 一般社団法人兵庫県音楽療法士会事務局
TEL(078)261-9601 FAX(078)261-9602 E-mail:hmta_02@ybb.ne.jp http://hmta2.net/



15周年記念式典及び特別講演の準備をする中で、兵庫県音楽療法士会のあゆみを感じることが出来ました。

今までの役員の方々、会員の皆様方、本当にご苦労様でした。そして、ご支援をいただいた方々、誠にありがとうございました。

人に例えれば青春時代、今までの活動を糧に、新たな一歩を踏み出していきたいと思えます。

20周年に向かって頑張ろう！

(白川滝実子)